



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

第34回九州コロイドコロキウムの開催と今年度の活動予定

コロイドおよび界面化学部会・九州支部の主要な活動に「九州コロイドコロキウム」の開催があります。これは今より30年ほど前に、九州大学理学部の本村欣士先生をはじめとする当時のコロイド・界面化学に関わる研究者方の発案によりスタートしたもので、九州地区の研究者や学生が一堂に会してコロイド・界面化学の基礎から先端研究までを学び、自身の知見を深め、情報を共有することを目的とした勉強会です。

昨年度の第34回九州コロイドコロキウムは広島大学大学院総合科学研究科のヴィレヌーヴ真澄美先生のお世話で、平成30年9月25日(火)と26日(水)に、広島大学の学士会館において開催されました。初日は、最初に資生堂グローバルイノベーションセンターの渡辺啓先生より、「相平衡制御による化粧品の新しい価値創出」と題して、化粧品開発における相平衡図の重要性について、その応用例も含めて大変有意義な講演を聞くことができました。次に、花王(株)解析科学研究所の山田真爾先生からは、「分子の視点から理解し制御する摩擦・潤滑特性」という題目で、摩擦現象を分子レベルで解明する研究とそれによって得られた摩擦機構の新しい知見について、聞くことができました。また、学生招待講演

では、九州大学大学院理学府の平城慎也氏(D3)から、「DSPC/DOPC/Chol及びbrain-SM/DOPC/Chol三成分混合二分子膜ベシクルでの線張力に関する研究」と題して、ベシクル内に形成されるドメインに作用する線張力の解釈に関する研究成果が報告されました。初日の最後には、ポスター発表が行われましたが、発表に先立ち各発表者から1分間のプレゼンテーションが実施されました。このプレゼンのおかげで、すべてのポスターの概要を把握でき、その後のポスター発表での活発な質疑応答へとつながりました。ポスター発表の後には、大学近くの居酒屋で懇親会が開かれ、美味しい食事とお酒を堪能しながら、さらに議論が進み、非常に楽しく貴重な時間を過ごすことができました。

2日目は、広島大学大学院総合科学研究科の田中晋平先生より、「表面張力によって駆動される液滴集団の動的構造形成」と題して、表面張力の作用によって生じる水面上の有機溶媒液滴の複雑な運動やクラスター形成のメカニズムに関する研究成果が、広島大学大学院工学研究科の杉山幸太先生からは、「脂質ベシクル表面での分子・ナノ粒子の自己組織化」と題して、ポリフィリン誘導体や金属ナノ粒子と人工細胞膜(リボソーム)表面との特異な相互作用(あるいは組織化挙動)について、最後に、九州大学大学院理学研究院の松原弘樹先生から、

「線張力に根差した界面吸着ナノ粒子の状態制御」と題して、界面現象における線張力(理論)の重要性とピッカリングエマルション系の解乳化現象における線張力の効果について報告されました。いずれの講演も、界面あるいは分子集合の研究に携わっている研究者にとっては、大変有意義な講演でありました。最後には、ポスター発表の表彰(3名の学生)が行われ、成功裏に終わることができました。



招待講演の様子

なお、今年度の第35回九州コロイドコロキウムは、Okinawa Colloids 2019のポストシンポジウムとして令和元年11月9日(土)に、OISTのシーサイドハウスにおいて「International Kyushu Colloid Colloquium」と題し、国際シンポジウム形式で開催されます。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

〔2019年度コロイドおよび界面化学部会九州支部・支部長 瀧上隆智(九州大学)〕

© 2019 The Chemical Society of Japan